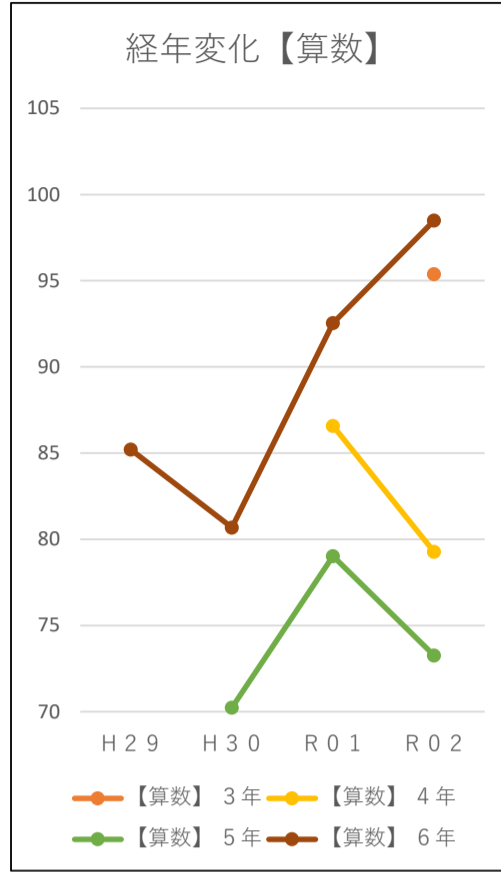
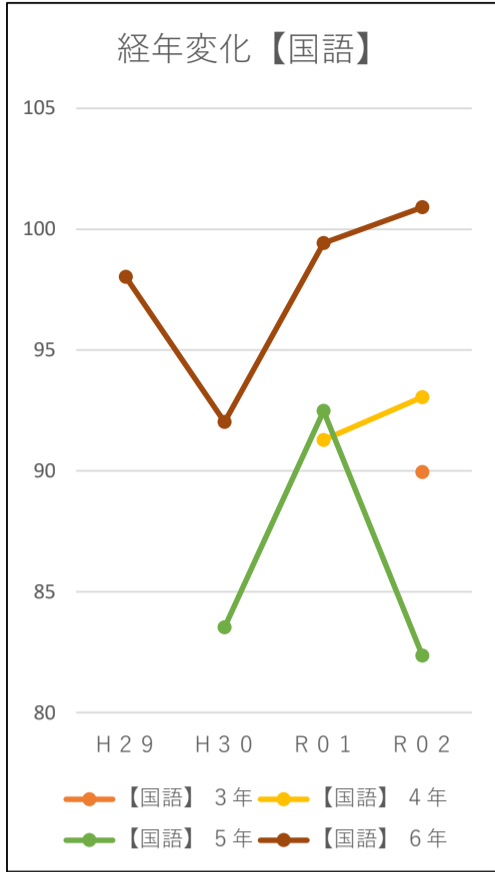


I 令和2年度末までの学力の状況把握(令和2年度 釧路市標準学力検査より)  
各学年の経年変化(目標値を100とした時の各学年の状況)



○3年生[現4年生]は、2年生の時よりも国語では活用問題、算数では基礎基本の問題の正答率が上がった。一方で国語の条件付きの読み取りや書き取り問題、算数では割り算の計算方法に課題が見られた。

○4年生[現5年生]は、国語は3年生の時よりも、全体的に正答率が上がった。特に漢字、言葉の学習、説明文の要約では目標値を上回っている。算数は、3年次よりも正答率が下がっており、特に記述問題が目標値を大きく下回っている。また、四則計算、長文の問題の正答率が目標値よりも大きく下回った。

○5年生[現6年生]は、国語では、漢字の読み、説明文の文章構成については目標値に近い値だった。漢字は5年生になって書けなくなっている傾向がある。「話す聞く書くこと読むこと」の正答率が低いのは、要点を聞き取る力が弱いことと語彙が少ないことが考えられる。算数は「数と計算」領域については定着していない。また、活用問題については、基礎が身につけていないためできていない。

○6年生[現中1年生]は学級間の差があるが、学年全体としては全国平均とほぼ同値。数値的には昨年、一昨年と上昇している。国語は領域で見ると、説明的文章の読解に昨年より伸びがみられる。また、作文問題の無回答率が若干低下した。算数の基本的な計算は昨年度目標値を下回っていた、今年度はほぼ全ての問題が目標値を上回ることが出来た。

II 各学年における成果と課題、令和3年度の取組 (○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

成果と課題について		今後の取組について
4年生	<p><b>国語</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3年時においては、テストや練習問題を行うと、無解答はほとんどなくなった。</li> <li>○漢字の読み取りは出来るようになってきている。</li> <li>△書いている内容が的を射ていない場合が見られ、問題文の理解、問題の意図を理解して解くという部分には課題が残った。</li> <li>○物語を読み取る力がついてきており、場面の様子や登場人物の気持ちを考えるなどは教科書の言葉を手がかりに自分の考えを述べたり書いたり出来るようになってきている。</li> <li>△説明文になると事実と筆者の考えを混同してしまう場面があり文章の内容を読み解くことに苦勞することがあった。</li> </ul>	<p>◇宿題先生の取組や宿題の中に漢字の読み書き問題を取り入れる。新出漢字だけ出なく。既習漢字の練習を併せて行う機会を設ける。</p> <p>□語彙力の向上のための読書、音読</p> <p>◎文章の読み取り、自分の考えを文章に表すトレーニングを行う。これまで短文作りを取組の中に入れていたが、次年度はただ文章を書くのではなく、目的や場面に応じて文章を書く練習を重ねていく。</p>
	<p><b>算数</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎基本はおおむねできています。</li> <li>○10000より大きい数が目標値より高かった。</li> <li>△わり算の計算では問題文から立式することはできていても、計算間違えが多かった。</li> <li>△円と球、時刻と時間の活用問題を苦手としている。</li> <li>△数量問題が苦手(数量感覚が弱い)。</li> </ul>	
5年生	<p><b>国語</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題での長文読解は続けて行い、効果がみられた。</li> <li>○あかねスキルを活用した定期的なミニテストによって、漢字が定着した。</li> <li>△宿題で毎日音読に取り組むように用意はした。しかし、取り組んでいるかは、家庭による。</li> </ul>	<p>◇練習ドリルとテストが一体になった形式の漢字ドリルは4年生に合っていたので、来年度も同様の形式を進める。</p> <p>◇宿題での長文読解を続けた結果、一定の効果がみられたので今後も続けていくようにする。</p> <p>□学力検査に合わせた類似問題に取り組む機会を意図的に設定する。</p> <p>◎過去のCRTやチャレンジテストの中から段落数や文字数の条件をつけた記述問題に取り組む。</p>
	<p><b>算数</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○解き直しを行う児童が増えた。</li> <li>△宿題はその時の復習が多くなり、あまり長文の問題を解く機会がなかった。</li> <li>△昨年度より、正答率が下がっている。</li> <li>△四則計算の正答率が目標値よりも大きく下回る。</li> </ul>	
6年生	<p><b>国語</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読みは目標値に近い。</li> <li>○説明文の文章構成については少し理解できている。</li> <li>△「話す聞く書くこと読むこと」の正答率が低いのは、要点を聞き取る力が弱いことと語彙が少ないことが考えられる。</li> </ul>	<p>◇宿題を中心に繰り返し基礎基本に取り組んでいく。</p> <p>□家庭で新聞を取っていないところも多いので学校の中で新聞を読む機会を設ける(リアルタイムに限らず)。活字に慣れるまで取り組んでいく。</p> <p>◎宿題の中では復習に力を入れる。特に当該学年だけでなく下の学年に戻って多種多様な問題に取り組ませる。</p>
	<p><b>算数</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○面積や体積の公式は多少覚えてはいる。</li> <li>△「数と計算」領域については定着していない。</li> <li>△活用問題については、基礎が身につけていないためできていない。</li> </ul>	

【低学年の指導について】

新1年生	<p><b>国語</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□正しい鉛筆の持ち方、書く時の姿勢をしっかりと身につくように「書くことになれる」学習活動を行う。</li> <li>□人の話を聞く、自分の考えを発表する、等基本的な学習規律の定着を図る。</li> <li>◇わかったことや得意なことを本人の自信につなげていくような声かけを続けていく。</li> </ul>
	<p><b>算数</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□具体物を操作する活動を多く取り入れて、「対1対応」「10までの数の合成、分解など、量感や数のイメージを豊かにする。</li> <li>□身の回りの生活の中と算数の学習をつなぐ経験をさせていくことで、文章の問題に対応できる力を身につけていくことができるようにする。</li> </ul>

		成果と課題について	今後の取組について
2年生	国語	○読解問題がよくできた。 ○絵を見て文章を書く問題(うた, じてんしゃ)ができた。 △「～へ」「～を」を書く練習が不足していた。 △絵を見て文章を書く問題(ボール)ができなかった。	◇自分でイメージし、見通しを持つことができるように、考えをまとめたり、思いついたことを表現(話し合う、ノートにまとめる、発表するなど)する機会を授業の中に積極的に用いる。 ◎「～へ」「～を」「～は」や「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」の総復習 ◎カタカナを書く練習 ◎ひらがな、カタカナ、漢字を交えて文章を書く。
	算数	○時計を読む問題と、文を読み立式し、答えを求める問題ができた。 △数の順番を答える問題(1とび, 2とび)、文章問題の単位、8+5-3になる文章を選ぶ問題ができなかった。	◇量感をイメージできるようにする体験的な活動を取り入れる。 ◎10の合成、分解は全員が暗算で行えるようにする。 ◎文章問題の強化「どちらが～多いですか」など、場面を想像することから数をイメージできるように具体物を使う場面を多く入れる。
3年生	国語	○「話を聞きとる」は、ほぼ目標値に近い。 ○「漢字を読む・書く」に関して、ほぼ目標値に近い。 △片仮名で書く語の種類を正しく使うことが理解できていない。 △「説明文・物語文を読み取る」が、目標値より大きく下回る。 △自分の思いや考えを明確になるように文章を書くことが苦手である子が多い。	・◇「書く」力の定着を目指し、授業の振り返り、日記、自分の考えなど、文章に書く機会を多くする。 ◇片仮名の学習の復習。 □宿題などで、初めての文章の問題に取り組む。 ◎「自分の考えを書く」機会を増やしていく。 ◇間違った問題の解き直しに取り組ませる。
	算数	○「たし算・かけ算」の計算が目標値に近い。 ○「長さ・かさ」が目標値に近い。 △繰り返し下がりひき算が身につけていない。 △ひき算の文章問題から立式したり、正しい答えを求めることが苦手である子が多い。 △文章問題を解いたり、計算に仕方を説明したりすることが苦手な子が多い。	◇「ひき算」や「四則計算」の復習。 □文章問題などを中心に宿題に取り組む。 ◎間違った問題の解き直しに取り組ませる。

### Ⅲ、学校全体における成果と課題、今後の取組について

#### ① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○:成果 ▲:課題

#### ② 改善の方向性について

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎:改善する取組 等)

授業づくり	<p>○習熟度別少人数指導では、ノートに書けない児童、時間のかかる児童が多数いるので、よりたくさん問題を取り組むことができるように教師があらかじめ教科書の筆算を書いたプリントを用意した。そうすることで、どの児童にとっても「次の活動を待つ時間」が少なくなり、自分で目標を決めて取り組もうとする児童が増えた。</p> <p>○児童の言葉から課題を設定したりまとめを行ったりする活動は、どのクラスでも学年に応じて児童への意識付けを行うことが出来た。</p> <p>○今年度の研修では、子供達の「見取り」をテーマに一人一授業を公開した。自分以外の授業を観察することで、子供たちの学びの軌跡、その児童に対する教師の関わり方や手立てについて交流することが出来た。</p> <p>△授業の中に「書く指導」を取り入れるような形で進めたが、学年、子供によってばらつきが出ていた。</p>	<p>◎「書く指導」は、学年、児童の実態に応じて出来る内容を考えて実施していく。【担任・教務】 →感想を書く、考えを書く、1行に書く、理由を書く等、条件加えたり、書くことが困難な子に穴あきワークシートを用意したりして実態に合わせてまずは続けていく。 □今年度全学年で同じ漢字スキルを使って学習を進めた。ある程度の効果が見られたので、次年度は更に一歩進めて全校で同じような活用方法を構築し、担任が替わったり、学級解体があっても同じ指導で学習が進められるシステムを確立していく。【担任・教務】 →子供たちは、実際に使用しているワークを通して、学校全体で統一した漢字の練習の仕方を学び、自ら学習する意識を育てていく。 □字を丁寧に書く指導を授業の中に入れる。丁寧に書くためには正しい鉛筆の持ち方や姿勢も必要になる。授業時間の中に正しい鉛筆の持ち方、姿勢でしっかり書く時間を設定するようにする(例えば課題を書く時は正しい鉛筆の持ち方で丁寧に書く等)【担任・教務・主幹】 →字を丁寧に書く、名前を丁寧に書くということは、最終的に様々な学習と向き合っていく子供たちの成長につながっていくものと考えられる。つまり、よい文字・美しい文字を丁寧に書くことは、きれいで美しい文字を書けるようになることが目的ではなく、日頃から丁寧に書く習慣が今後の学力アップにつながっていくことをもう一度職員に提案する。 □個人タブレットが配付されることを受け、授業の中での個に応じた学習のツール、学びを深めるツールとして活用していく。【情報化委員会・担任・教務】 →自分の理解に応じて個人の課題に応じて追求していく場面での活用、深い理解を目的とした交流を行うためのツールとしての活用など、授業中にどのような活用方法があるか考え、実践し、交流を重ねていく。</p>
環境づくり	<p>○名前の手本は今年度縦書き横書き2種類を要し、大きさも昨年より少し大きくした物を全児童に配布した。全学級で教室机のマットに挟み、子供自身で自分の名前を確認することが出来るようにすると共に全校で、統一した取組を行うことが出来た。</p> <p>○少人数教室では授業中に暇になってしまう子がいないように自学習用のプリントを複数用意して、児童が自ら学習に取り組めるようにした。</p> <p>○各学年の廊下掲示板には学年で統一した学習の軌跡を掲示した。また、児童玄関前の掲示板には、月ごとに各学年の学習成果を掲示して、自学年だけでなく他の学年の取組や成果を見ることができた。</p> <p>△階段や掲示板の利用を今年度はあまり変えることができなかった。</p>	<p>□登校してから朝の会が始まる前の時間を利用して、タブレットを使って自分自身でドリル学習に取り組めるようにする。また、曜日によっては、登校後読書を進める時間を設定していくようにする。【教務・情報化委員会】 →新しく導入されるタブレットをどのように使うかを考える中で、まずは子供自身に手を取り触ることの出来る活動を取り入れ、徐々に授業での活用を進めていく。 □情報化委員会が中心となって、ICTの効果的な活用ができるよう、校外の研修会に参加して学んだことを還元したり、学年、教務と連携して、実践事例をまとめ交流したりできる研修時間を設定する。【情報化委員会】 →新たに導入される児童用タブレットの使い方を教職員も学んでいく機会を作る。 ○階段・各掲示板の使い方を担当者を中心に今後もう一度検討して、令和3年度の使用方法を確立していく。【研修部】 →以前活用したものを参考にして、取捨選択すると共に新たな課題や今児童にとって何が必要かを考えていくようにする。</p>
習慣づくり	<p>○自分の名前を丁寧に書くという取組については、各学年に応じて取り組んでくれており、丁寧に書ける子供の学力検査、チャレンジテストの結果にもつながっていた。</p> <p>△一方でしっかり自分の名前を書く児童と書けない(書かない)児童との差が学年によっては出てきているのも事実であり、丁寧に書くことのできない児童については学力テストやチャレンジテストの結果に表れていた。</p> <p>○宿題先生の取組については、参加する児童が固定化しつつあるが、回数を重ねていく中で自分で目標を決めて取り組むなど自分から課題を持って参加する児童が増えてきた。</p> <p>△現在は各学年週に2回の取組ではあるが、回数を増やしてほしいという子供や先生方の声がかかれていたものに対応することができなかった。朝学習において、読解力向上におけた取組を全校で取り組み、読む力を向上させることができた。</p> <p>△2学期の家庭学習時間が減少している。学年が上がるにつれて長時間学習するのが難しくなっている。目標時間(学年×10分+10分)に到達していない児童が多い。家庭学習への取組に個人差が出ており、学力差にもつながっている。</p>	<p>◇自分の名前を丁寧に書く指導は継続する。【主幹・教務・担任】 →丁寧に文字を書くことと学力につながりがあると捉え今後も継続をしていく。 ◇宿題先生の参加者が増えたので、今年度は「自ら残りたい」と考えている児童全員に対応できるようにしていく。【主幹・宿題先生担当者】 →取り組む場所を複数指定し、自分で進めることができる児童、教師が手をかけていかなくてはいけない児童に分けて、各学年の参加できる人数を増やしたり、担当する教員の配置を工夫したりしていく。 □家庭学習については家庭の協力が不可欠なので家庭学習の手本書を配付するだけでなく、月に一回「学びのすすめ(仮称)」などを家庭に発行し、各学年が学習している内容の補足(国・算)、おススメの家庭学習、子供への励ましの言葉などを紹介する。【教務・主幹】 →学び方がわからない、家庭でどのように学習をさせたらよいかわからないという声に答えるため、その学年で学習する上で大切なことを伝えていけるようにするため。 □チャレンジテストの終了後、担任がテストの結果を通して児童と面談をする機会を設定する。【担任】 →子供達が今後の目標や気をつけることを担任のアドバイスや指導を聞きながら具体的に確認できるようにするため。 ◇全学年、宿題として国語と算数のプリント(A4判両面)で1枚出す。【担任】 →宿題の取組が始まって3年がたち、子供たちの中に習慣化されている。今後も継続して取り組むようにしていく。</p>